

都市医師会長プロフィール

北広島医師会

齋藤 洵 先生



平成23年4月1日、齋藤洵先生が北広島医師会の新会長に就任されました。先生は、昭和43年に札幌医科大学をご卒業後、同大学の胸部・心臓大血管学教室（現第二外科）に入局されました。その後、道内各地の病院で研鑽を積まれ、昭和53年に御地にて、さいとうクリニックを開業されて以来、地域に根ざした医療提供を实践され、今日に至っております。また、日々の診療、医師会活動などお忙しい中、札幌医大胸部外科の同門会長としてもご活躍中で、同門の発展にもご尽力されております。

平成元年、北広島医師会理事に就任後は、長年にわたり中心的役割を担われ、当医師会の屋台骨を支えてこられました。平成19年には副会長に就任され、2期4年にわたり前会長を支えられました後、本年4月、新会長に就任されております。

実直で明るい性格の先生は、小児から高齢者の方までファンが多く、親子三代にまでわたる患者様も多数おられ、まさに地域に根ざした医療の体現者です。

旅行と絵画鑑賞がご趣味の先生は、日本や世界各地の美術館を訪れては、名画を間近で堪能し、本物の鑑賞眼を磨かれておられるようです。

また、学生時代は柔道部の主将を務められ、「行動することに意義がある」をモットーとされるスポーツマンの先生は、ゴルフ、スキー、スケートと多岐にわたるスポーツも楽しんで来られました。

札幌のベッドタウンとして発展を遂げてきた北広島市は、平成8年に市政となり、現在人口約6万人の街となっておりますが、日本の少子高齢化と歩調を合わせるように北広島市でも高齢化が進んでいます。住民の医療ニーズがますます高まる中、齋藤新会長はさらなる医療連携の重要性を強調され、また、福祉との架け橋的役割を担うためにも、市政との緊密な連携をはかり、医師会活動を通して、北広島市民の健康と安心を提供するために尽力したい、と抱負を語っておられます。

北海道医報通信員
北広島医師会理事 高坂 研一

羊蹄医師会

皆川 幸範 先生



平成23年4月より、皆川幸範先生が羊蹄医師会長に就任されましたのでご紹介いたします。

先生は昭和52年北海道大学医学部を卒業され、北海道大学第二外科に入局されました。夕張のご出身で、中学校のころからときどき「胃痙攣」で近くの開業の先生にお世話になっていたことなどから、「地域医療」を目標に医師への道を選びました。

入局1年目は北海道大学麻酔科で研修され、その後、札幌の斗南病院、市立旭川病院での外科研修を終えて医局に戻られました。昭和59年から浦河赤十字病院外科部長、平成元年から札幌センチュリー病院副院長を務められ、平成12年に倶知安の西村外科胃腸科に移られ、平成15年に「くとさん外科胃腸科」を開業されました。「くとさん」とは診療所の近くを流れ、清流尻別川に流入する「くとさん川（倶登山川）」からきていますが、「この川のように地元へ愛される診療所でありたい」という信念のもと、診療所に川の名前を使われました。

先生のご趣味は囲碁（四段）、ゴルフ、温泉ですが、その他にも外国人のホームステイの受け入れや、地元の羊蹄太鼓保存会でもご活躍されています。

先生は大学の医局時代から、倶知安で開業されていた先輩の出間先生の医院のお手伝いもされており、倶知安での医療は30年を超え、住民からの信頼はとても厚いものがあります。羊蹄医師会では、平成11年からこの春まで務められた前医師会長の高階日出男先生を理事として支え、会長就任後は早速、地域医療の厳しい羊蹄山麓の住民懇談会にも積極的に参加され、医師会として地域医療を守るために奮闘されています。会員同士の連携を深め、地域と協働して、初心を忘れず、地域医療のために尽くしていきたいと抱負を語られており、先生の信念と強いリーダーシップに、私たち会員一同ついていきたいと思っております。

北海道医報通信員
羊蹄医師会議長 大泉 樹

岩内古宇郡医師会

石山 直志 先生



去る平成23年1月20日に開催された岩内古宇郡医師会臨時総会において、石山直志先生が当医師会の会長に選出されました。

石山先生は昭和55年札幌医科大学を卒業され、内科学第2講座に入局、飯村攻教授のもと循環器病学全般について勉強されました。平成6年9月には石山内科循環器科クリニックを岩内で開業され、17年間、岩内周辺の地域医療を担ってきた先生です。

医師会での先生は寡黙なので、なかなか人柄は分かりません。ただ、先生に診てもらっている患者さんは「どんなに混んでいても、良く話をきいてくれる」「丁寧に時間をかけて診察してくれる」とよく話してくれます。また、総会のときには、東日本大震災で亡くなった方に黙祷を提案されました。思いやりのある、温かく、真面目な人柄ではと想像することができます。以前はテニスをよくされていたようですが、最近は、積丹やフルーツ街道（仁木から余市）をドライブするのが趣味とのことでした。

抱負として、医の倫理に基づいた安全な医療の提供、病診連携・診診連携の推進、原発のある地域の災害時の医師会の在り方、医療関連他職種との密接な連携、地元町村の健康教育活動に対する協力などを掲げられており、一理事として、微力ながら協力したいと思えます。

北海道医報通信員

岩内古宇郡医師会理事 寺山亜希子

三笠市医師会

川崎 君王 先生



平成23年4月、川崎君王先生が、前会長・千賀孝治先生の後任として三笠市医師会新会長に就任されました。

先生は、昭和56年に札幌医科大学を卒業され、同大学内科学第一講座の同門であります。平成22年10月、市立三笠総合病院院長として赴任されました。

内分泌・糖尿病、消化器病を専門とされ、特に、数少ない甲状腺学会専門医であります。また、糖尿病関連では、最新の知見に基づく医療の導入を着々と進められ、医療者向けのみならず、高血圧・糖尿病・脂質異常症に関する一般向けの地域講演会を精力的に開催されています。早々に地域の介護関連施設とも連携をもたれ、赴任された市立三笠総合病院では、「継続可能な医療」をモットーに、職員を叱咤激励される毎日です。

先生のお人柄の特徴は、率直で飾らず、面倒見が良く、闊達陽性なことであるとお見受けします。また、自らの健康にも留意され、専門分野の疾病で命を落とすことが多いと揶揄される医師の常にあらず、以前よりアルコール飲用をやめられ、趣味のトレッキングに精を出されております。主に向かわれる山は、羊蹄山・ニセコアンヌプリなどと伺っています。

今年、三笠市は開庁130年を迎えますが、旧産炭地であり、高齢人口割合42%の北海道1・2位を争う高齢化率、また、年率約3%の人口減少率の問題があります。そこに立地する郡市医師会としての三笠市医師会も、他聞にもれず、医師・コメディカル不足はもとより、さまざまな問題をかかえておりますが、今までの伝統を引き継がれ、持ち前の笑顔と馬力で、自治体や住民と積極的にかかわりながら、当医師会と当地域の医療を牽引していかれると、期待申し上げます。

末筆ではありますが、会長に就任され毎日がご多忙な中、今後とも健康に注意されてご活躍いただくことを祈念し、紹介とさせていただきます。

三笠市医師会 増川 丈児

旭川市医師会

山下 裕久 先生



旭川市医師会の新しい会長に、山下裕久先生が本年4月1日に就任されましたのでご紹介いたします。

先生は昭和20年生まれ。昭和45年北海道大学を卒業し、北大麻酔科、砂川市立病院内科、網走厚生病院外科で研修された後、北大第一内科に入局されました。医局の方針で呼吸器、一般、循環器の3分野を回り、小樽国立療養所勤務の後、昭和49年に旭川医大第一内科助手として故郷旭川に戻られました。「給料が半分になった」と当時を振り返ります。

新設旭医大は人手がなく31歳で病棟医長となり、卒後5年目2名、1年目2名の病棟スタッフで気管切開から心臓カテーテルまで業務に追われたが、麻酔科、外科を回った経験が役に立ったと言います。

道内3大学の中でPTCA施行は最初とのこと。

平成元年にカリフォルニア大学サンディエゴ校に留学した直後に湾岸戦争が起き、帰港した航空母艦、軍艦の質量に彼我の差を実感したと言います。

平成9年に自宅近くで開業し「50歳を超えての開業なので、あとは自適」と思っていたのが国保審査委員になり、増田一雄前会長の推薦で平成13年に旭川市医師会執行部入り、理事6年、副会長4年を務められました。

3男1女の長男が札医2内で、道内3大学ともに親近感がありますとのこと。夫人は眼科を開業されております。

勤務医生活が長く、開業医と勤務医の橋渡しをしたい。地域ケアネットワークを広げて、病院・かかりつけ医の連携を進めたい。道北の医療の中心として郡部との協力体制を推進したい。旭川市の人口比医師数は全国2位ともいわれたが、平成20年には中核都市7位であり、開業・勤務医共に若年層が少ないので、救急・在宅を含めて、医療資源の維持・再生・活用を市民と共に考える時期とも言われております。

趣味は旅行で「会長業務で行きづらくなって残念」とのこと。旅行写真で「旭医だより」の表紙を数度飾りました。学生時代は軟式庭球で力任せだった由、ゴルフは全道ドクターズに今年初参加し、Bクラスでブービー賞を得て強運振りを発揮？したとのことでもあります。

北海道医報通信員
旭川市医師会理事 相澤 裕二

深川医師会

山崎 充 先生



平成23年4月1日、山崎充先生が深川医師会会長に就任されましたので、ご紹介いたします。先生は歌志内市の出身で、昭和48年3月札幌医科大学を卒業、その後秋田大学医学部附属病院、深川市立病院に勤務の後、昭和50年4月より北海道大学循環器内科へ入局され、昭和54年より再度深川市立病院に勤務、昭和59年9月、深川内科クリニックを開業、現在にいたっております。

医師会においては、平成11年4月深川医師会監事、平成13年同理事、平成19年より副会長を務めておりました。

先生の就任挨拶における重要課題の1つめは、北空知の地域医療を守ること、具体的には医師不足で疲弊する市立病院を支援し、医療の崩壊を防ぐということです。その1つとして、市立病院勤務医の負担を少しでも軽減すべく、日曜祝祭日の当番診療を市立病院へ出向いて行うことを決定、山崎会長はじめ賛同する多くの先生が参加しております。

重要課題の2つめは、地域医療を守るための住民参加を提唱されました。まだ緒についたばかりですが、地域の各団体のリーダーと接触して、8月ごろまでにはめどをつけたいとの意向です。会長職のほか、医師会学術健康教育部会の会長を兼務し、年に10回程度、道内外の講師を招くなど講演会の開催に率先、尽力されております。さらに今回、深川市学校保健会会長にも選任されております。

私的な面では、先生は非常に読書家で、医学関係のほか政治、経済、社会にかかわる書籍をよく読まれています。医政問題にも詳しく、今後が期待されます。趣味は読書のほか旅行、将棋(2段)、スポーツ鑑賞(特にボクシング)で、またお酒については特にワインに造詣が深く、時にご相伴させていただいておりますが、興が乗るとマイク片手にカラオケを熱唱されることもあります。

先生におかれましては、ますますご多忙になると思いますが、どうぞ健康に留意されご活躍されますことを祈念してご紹介とさせていただきます。

深川医師会理事 志賀 満

自己紹介

宗谷医師会会長



高橋 昭彦

今年度より宗谷医師会の会長になりました高橋昭彦です。昭和31年生まれの牡羊座の55歳です。昭和58年愛知医科大学を卒業後、愛知医大第二内科に入局しましたが、父親が病気になり医院を閉院としたため、平成3年4月より、当地にたかはし内科胃腸科を開業しました。開業当初より家族を札幌に残し、週末に移動する生活をして20年たちました。

趣味はゴルフと麻雀で、特にゴルフは世界中のランキング上位のコースをプレーしたいと思っています。プレーしたコースの中ではアメリカのソウグラ

スとスペインのバルデラマが印象的でした。ツアー観戦はマスターズに二度、全米オープンに一度行きました。今後も時間を作って、たくさんのコースでプレーしたいと思っています。

宗谷医師会は利尻島、礼文島を含む3カ所の飛行場がある広域な医師会です。会員数38名ですが開業医は9名と少数で、ほとんどは基幹病院の市立稚内病院および町立病院の先生方です。日常の診療が忙しく、また広域のため、稚内市での総会や講演会に出席するのは大変です。当医師会も開業医の減少や診療科の撤退、縮小等の医師不足の問題もあり、医師会活動は一部の先生に限られ、一人の仕事量が多く負担になっているのが現状です。

私も微力ながら今後も多数の先生方とコミュニケーションをとりながら、稚内市等の行政とも関係を密にして医師会を運営していきたいと考えています。

北海道医報へのご投稿等について

◇広報委員会◇

北海道医師会では、会員の皆さまから「学術投稿」「会員のひろば」等各種原稿を下記要領にて募集しております。是非ともご投稿いただきたくお願い申し上げます。

なお、写真作品のご投稿につきましては、ホームページに「フォトギャラリー」を設けておりますので、ご応募ください。

投稿要領

1. 原稿の締切

毎月10日までにいただいたものは原則として翌月号に掲載となります。ただし、「会員のひろば」については、受付状況により掲載号を決定します。

できるだけメール等の電子メディアでお寄せください。

2. 原稿の体裁と字数制限

(1) 原則として横書きといたします。

(2) 引用文以外は、すべて当用漢字、現代かなづかいを使用してください。

(3) 誤字、脱字、明らかな間違い等は広報委員会において訂正いたします。

(4) 1回の掲載紙面は、原則として2頁を限度とします。

医報1頁は約2,200文字です。ただし、タイトル、写真、図表等を含んでおりませんのでご考慮ください。

(5) 長文原稿および連載物は、広報委員会にて採否決定の上で分割掲載、掲載号等を決めさせていただきます。

3. 原稿の訂正、返却

次の場合は、広報委員会の決定に基づき、執筆者に対し訂正を求めるか、または返却いたします。

(1) 特定の個人・団体を誹謗、中傷する内容

(2) 匿名の投稿

(3) 本誌以外に既掲載のもの、あるいは投稿中のもの（二重投稿）

ただし、特に必要と認められる場合はこの限りではない

(4) その他掲載に支障がある内容

4. ホームページへの掲載

特にお申し出のないかぎりホームページに掲載されますので、予めご了承ください。

連絡先：北海道医師会事業第一課
TEL 011-231-7661 FAX 011-252-3233
E-mail : ihou@m.douji.jp